

## 本校における進学指導について

著者	出石 隆, 鍋木 光朗, 玉鉾 良三, 米谷 数子, 中原吉晴, 能崎 克巳, 竹内 昭, 亀田 富子, 松扉 繁麿, 小倉 幸春
雑誌名	高校教育研究
号	14
ページ	1-6
発行年	1963-03-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00063389">http://hdl.handle.net/2297/00063389</a>



# 本校における進学指導について

## 研 究 部

出石 隆	鏑木 光朗	玉鉾 良三
米谷 数子	中原 吉晴	能崎 克巳
竹内 昭	亀田 富子	

## 第三学年主任

松扉 繁麿 小倉 幸春

本校においては進学指導らしいものを行うのは第3学年になってからであり、2年までは高等学校としての正規な時間割に従っており、特別なものをもたない。ただ、教科によっては授業中に問題集などを併用してある程度の受験指導を行っているものもあるが組織だったものはない。

本年度の3年生は162名中2名が就職希望で他の者が全部進学希望である。（例年、就職希望者は少ないので、非常に有利に全員就職できている。）

以下に本年度の第3学年になってからの進学指導についての概況を述べよう。

### (一) 補講について

(1) 前 期 4月23日～7月7日  
9月1日～9月30日

月、水、木、金曜は第7、8限に行い、そのうち国語2時間、数学4時間、英語2時間（火曜は定例教官会議の日で補講を行わない）土曜は第5、6限に行い、化学、世界史各々1時間。

(2) 夏季休暇 7月13日～7月31日  
8月21日～8月30日

この期間は毎日午前中4時間行う。夏季休暇は7月21日からであるが、第1学期期末考査終了後は3年生は特別時間割として補講を行う。

7月13日～7月31日の科目、時間配当は前期補講計画と同じ割合である。

8月21日～8月30日は日本史、人文地理、物理、生物を均等の時間配当で行う。

(3) 後 期 (10月1日～12月5日)

月、木曜は第7、8限に、水、金曜は第7限に行い、人文地理、世界史、日本史、化学、物理、生物各1時間ずつ行う。

(4) 冬季休暇 (12月13日～12月28日)

この期間は毎日午前中4時間行う。冬季休暇は12月25日からであるが、第2学期期末考査

終了後は3年生は特別時間割として補講を行う。

科目、時間配当は後期補講計画と同じ割合である。

(5) 第3学期

3年生は午前中とし、授業内容も大幅に補講的色彩を加味している。

以上が補講計画であるが実際に実施されたのは学校行事の影響などにより相当欠けている。補講内容については各科によって異なり、正規の授業の延長として行うもの、講義によるもの、問題集によるもの、参考書によるものなどいろいろである。

(二) 模擬試験について

模擬試験は第1学期2回、第2学期3回、第3学期1回、計6回行っている。

このうち第1学期の2回は英語、数学、国語の三科目で、更に数学は数Ⅲは行っていない。日数も第1学期のは2日間、あとのものは3日間である。

(1) 成績発表

模擬試験実施後は、平均点とか、成績分布状況のほかに、次のものを公表する。

各科目ごとに第10番目位までの成績優秀者の氏名、得点

英語、数学、国語三科目の総点について第20番目までの成績優秀者の氏名、得点

全科目を総合して平均80点以上の成績優秀者の氏名、得点

(2) 各個人の成績累加記録

各個人の累加記録は次の二様の形式をとっている。

(イ) 学力テスト累加記録

学力テスト累加記録簿 三年.....組.....番 氏名

科目	国語	英語	社会				数学			理科				三科目(国英数)				総合						
			社	日	世	人	算	数	数	物	化	生	地	総	平	学	ク	科	総	平	学	ク		
回数	月	語	会	本	界	文	Ⅰ(代)	Ⅰ(幾)	Ⅱ	Ⅲ	理	学	物	学	計	均	年	ラ	目	計	均	年	ラ	
1回	月																							
2回	月																							
3回	月																							
4回	月																							
5回	月																							
6回	月																							
備考																								

(ロ) パンチカードを利用したの記録

(表)

No.	氏名	男女	年度卒	S.D.	出身校	中学											
学業成績	学年入試順位	1 年		2 年		3 年		最	最	平							
	学期	1	2	学年末	1	2	学年末	1	2	学年末	高	低	均				
	順位																
	平均																
学力テスト成績	科	国	英	代	幾	数Ⅱ	数Ⅲ	日史	世史	人地	物	化	生	科数	総点	平均	順位
	1																
	2																
	3																
	4																
	5																
	6																
受検校 合格校	現役							一浪						二浪			

(裏)

年月	種類	国	英	数	社	理	総点	平均	順位	欠	1	2	3
							/	/	/	遅	年	年	年
							/	/	/	保護者	父		職
							/	/	/	母			業
							/	/	/	家庭			
							/	/	/	YG			
							/	/	/	性格			
							/	/	/	健康			
							/	/	/	特活			
							/	/	/				
							/	/	/				

(㊦)の方は本年度から計画されたもので、まだ十分資料が整備されていないが将来はこれのみにきりかえたいと考えている。

内容的に(イ)の項目を含んでいるだけでなく、学外の模擬試験の成績も記入できるようにしている。更に、例えば次の(3)のごときものをつくるときにもパンチカードは非常に便利である。その他、学校成績、健康、性格、家庭環境などの関連を見る上にも資料を整理するのが便利である。

(3) 模擬試験と前年度入学試験

結果との関連

\_\_\_\_\_大学 \_\_\_\_\_学部

氏名 (合格, 不合格) (現役, 一浪, 二浪)

( )		10		20		30		40		50		60		70		80		90		100		110		120		130		140		150		160
( )																																
( )																																
( )																																
( )																																
( )																																
( )																																
( )																																
( )																																
平均																																

実力テスト			学業成績						傾向	知能指数	その他
順位		平均	順位		平均		平均				
最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均			
平均											

A大学B学部の例えば現役での合格者全員の成績をよい者の順に記入してゆく。その生徒が学力テストで順位としての最高、最低、その平均、及び100点満点に換算したときの得点での最高、最低、その平均を記入する。

学校での成績についても同様なことを記入する。

傾向というのは段々上昇してきているとか、変動が多いとか、あるいは所謂試験度胸がないとかを記入する。

最下段の平均は合格者全員について、それらの平均をだす。

その他のところは生徒会とか運動部で活躍し、勉強がおろそかな時があったとかの記入をしておく。

左側の数字は順位を示すもので、この線上に学力テストにおける最低順位から最高順位までに赤線をひき、その平均順位の所に印をつける。これは模擬試験でどのくらいの者が合格できるかを見やすくするためである。

不合格者についても同様な整理をする。

一浪、二浪の合格者、不合格者についても同様な整理をするが、一浪、二浪については浪人時代だけでなく高校3年のときのものについて調査する。これは生徒が現役ではとても合格ができないが、一年浪人すれば志望校に合格できるかどうか、二年浪人すればできるかどうかという程度の目安をたてるためである。

(4) 以上は校内におけるものからの判断であるが、毎年の生徒が同程度とは考えられないので2学期以後はつとめて学外の模擬試験(例えば旺文社、東大、京大、金大などの主催)を受験させ、その学年の他校との力の比較、更にそれにより昨年度の学年との比較をしている。未だそれを数値的にたやすく換算できるような基準はつくられてなく、主観的な判断にまわっているが。

### (三) 出題傾向と対策について

本校においては教育研究会が通例1カ月に1回行われている。これは一般教育、教生指導、生徒の学習指導、補導あるいは教官の一般教養を目的として行われるが、例年5月の研修会では各教科の教官により本校の生徒が進学するような大学の入試問題の検討を行う。

他教科の出題傾向を話されても深い専門的な面については理解できないが、ホームの主任のみならず生徒の進学の相談を受けるときは是非聞いておく必要があり、また非常に役立っている。

この研修会の後、ロングのホーム・ルームなどを利用して各教科の教官から3年生に対策を含めて話をしてもらっている。

### (四) そ の 他

進学相談については、ホーム・ルームの主任が一切ひき受けており、毎回の実力テストの後では個人面接を行い、志望校についての相談にのっている。

また、家庭とも緊密な連絡をどって、本人の希望、父兄の希望、環境、本人の能力などを総合している。

11月の第5回学力テストの後では3年全部の主任が集まり、全体の統計資料などを利用して一人ずつの生徒についての可否の可能性について相談し個人的偏見におちいらないように

努めている。

その他進学上の手続きは勿論、ありとあらゆる精神的、事務的仕事にたずさわっている。

高等学校は全人間的教育をするところであり、大学入試の予備校ではなく、だからといって生徒の進学指導は決して、おろそかにできるものではない。その意味のもとに本校における本年度の進学指導の概況を述べた次第であるが諸先生の御批判、御指導を御願ひしたいと思う。